

2016年12月9日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 田辺 有輝

ネパール国スルヤビナック・ドゥリケル道路改修計画
(協力準備調査(無償))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2016年11月18日(金)14:03~15:31
- ・場所：JICA本部(1階112会議室)
- ・ワーキンググループ委員：織田委員、田辺委員、谷本委員、林委員
- ・議題：ネパール国スルヤビナック・ドゥリケル道路改修計画(協力準備調査(無償))に係るドラフトファイナルレポートについての助言案作成
- ・配布資料：ネパール国スルヤビナック・ドゥリケル道路改修計画(協力準備調査(無償))
ドラフトファイナルレポート 事前配布資料、Environmental Impact Assessment (EIA) of Suryabinayak- Dhulikhel Road Improvement Project (Draft)
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第75回委員会)

- ・日時：2016年12月9日(金)14:30~16:53
- ・場所：JICA本部(1階111・112会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 将来の工事開始時に、コントラクターは、選定された砕石場が環境面での問題がないことを示す許可証等を確認する必要があることを FR に記述すること。

環境配慮

2. FR に新たに「生態系」の項目を設け、開発地域周辺の自然条件を踏まえた影響評価に基づいた適切な対策を FR に記述すること。例えば、本事業周辺の森林を生産林、生活林、天然林など森林の特性に応じて把握し、それぞれに生息する野生生物への影響（野生動物の轢死（ロードキル）の問題も含めて）等の問題も検討し、FR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

3. プロジェクトの受け入れ／印象に関する聞き取り調査結果について、正確かつ客観的に FR に記述すること。
4. 事業実施の見通しが必ずしも明確でないことから、現地での混乱を回避する趣旨で、DFR 案段階でのステークホルダー協議が実施されなかった。今後、何らかの形で本事業にかかる調査が再開される場合には、住民協議を実施するよう先方政府に働きかけること。
5. 「女性世帯主 (women headed household)」に対する特別な配慮 (意思決定の参加、移転に関する要望への配慮等) について FR に記述すること。

以 上